

廃棄物減量等推進審議会会議 会議結果

会議名	第5回木津川市廃棄物減量等推進審議会		
日時	平成27年2月13日（金）午後2時から	場所	木津川市役所 第2北別館 2F会議室
出席者	委員 <input checked="" type="checkbox"/> …出席 <input type="checkbox"/> …欠席	<input checked="" type="checkbox"/> 郡嶌委員（会長）、 <input type="checkbox"/> 浅利委員（副会長）、 <input checked="" type="checkbox"/> 石崎委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 宗形委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 山田委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 伊原委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 木村委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 戎崎委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 立花委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 水野委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 中島委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 新井委員、 <input type="checkbox"/> 石田委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 近原委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 福島委員、 <input type="checkbox"/> 森 委員、 <input checked="" type="checkbox"/> 山本委員	
	その他出席者	傍聴人：なし	
	庶務	生活環境部 駒野部長、金森次長 まち美化推進課 秋元係長、豊田係長、大西主査、田中主事 クリーンセンター建設推進室 山本室長	
議題	1 開会		
	2 会長あいさつ		
	3 議事	(1) 第4回廃棄物減量等推進審議会会議結果について (2) 審議事項 ① 更なるインセンティブを付与した効果的な取組みの推進について	
	4 その他	(1) 次回審議会の開催日程について 平成27年5月18日（月）午後1時から 木津川市役所	
	5 閉会		

会議経過	事務局 (進行)	<p>すみません。それでは、失礼をいたします。</p> <p>定刻を少し過ぎましたが、ただいまから第5回木津川市廃棄物減量等推進審議会を開催させて頂きます。委員の皆様方には、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、篤くお礼を申し上げます。本日、司会をさせていただきます、まち美化推進課の金森でございます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。それでは、座って失礼をします。</p> <p>それでは、議事に入ります前に、まず初めに資料の確認をさせていただきたいと思います。本日の資料につきましては、事前に送付をさせていただいておりますけど、資料の右側に資料ナンバーの方を確認していただきたいと思います。まず最初に、本日の会議次第でございます。続きましてNo.1として、第4回の審議会の会議結果（案）でございます。続きましてNo.2、廃棄物減量等推進審議会の議事の流れでございます。続きましてNo.3、更なるインセンティブを付与した効果的な取組みの推進について、でございます。資料につきましては以上でございますが、皆さんよろしかったでしょうか。はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、審議会を進行するに当たりまして、皆様にお願い事でございます。携帯電話につきましては、電源をお切りいただくかあるいはマナーモードに切り替えをお願いしたいと思います。また、この本日の審議会につきましては、運営内規によりまして原則公開とさせていただいております。</p> <p>次に、本審議会の成立状況についてご報告をさせていただきます。木津川市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例施行規則第6条第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席により、開催することができると規定をしております。本日は委員17名中、15名のご出席をさせていただいており、会議は有効に成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>それでは、次に郡嶋会長からご挨拶並びに議長としての議事の進行、よろしくお願ひを申し上げます。</p> <p>会長 皆さん、こんにちは。お寒い中、また今回はいつもの場所と違って、戸惑われた方もいらっしゃるかもしれません、私もその一人ですけども。こんな所があるとは、思ひませんでした。</p> <p>今まで4回ほど、皆さん方のご議論いただきました。特に4回目から少しずつ、いわゆるインセンティブを含めた形、どうしていったらいいのかという形の議論に入り、特に4回においては生ごみを中心とした減量化のシステム、これは色々なシステムがあるだろうと。家庭でやる、それから学校単位でやる。あるいはもう少しまち全体でやっていくために何らかの関係団体との連携を取りながら。つまり、言い換えると各家庭からだけではなく、まちぐるみでこのごみの減量化に取組んでいくという方向でのご意見あるいはご示唆をいただきました。</p> <p>もう一つ、併せて行政の役割、役割と言いますカリーダーシップを発揮していただいて、より強力にこれを進めていくということについてもご議論をいただきました。そういう面で今日はそれを更に進めて、色々なそういう施策を進めていく上において、やれるところ、すぐにでもやれると言いますか、やる気になればやれるところと、ある程度初期投資が必要なものが必要になってくる。どうやって更なる減量化の方向を進めていくかということで、皆様方の議論あるいはご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それからもう一つですね、いつもやっていますように、審議会の運営内規第5条に依りますと、私の方から第5回、今回の審議会の会議録に署名人を指名することとなっています。これは名簿順ということで、今回は木村委員にお願いをしたいと思いますけども、よろしゅうございますでしょうか。</p>
------	-------------	---

	委 員	はい。
	会 長	<p>それでは、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それからもう一つ、先程資料確認がございましたけども、この本日配布されております資料につきましては、原則として公開ということさせていただきたいですけど、よろしゅうございますでしょうか。</p>
	委 員	はい。
	会 長	<p>はい。そしたら公開とするとさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは早速でございますけども、議事次第に沿いながら、議事を進行させていただきたいと思います。まず一つはですね、第4回、前回の審議会の会議結果についてということで、事務局からよろしくお願ひします。</p>
	事 務 局	<p>事務局説明省略</p> <p>(No.2 : 廃棄物減量等推進審議会の議事の流れ)</p> <p>(第4回廃棄物減量等推進審議会における意見等の要旨・趣旨)</p> <p>(No.1 : 第4回廃棄物減量等推進審議会会議結果(案))</p>
	会 長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今ですね、第4回の審議会の内容の要旨については、事務局の方から上手くまとめていただきましたけれども、基本的にそれは、今皆さん方のお手元にありますNo.1の資料、これは当日の会議で皆さん方からご発言をいただいた分を筆起こしてもらったものですけど、もしもですね修正点、私の言っている主旨が違うよということがあれば、次回の審議会までに事務局の方まで修正の方、申し出ていただきますよう、よろしくお願ひしたいと思います。この件に関して、何かご意見等ございますでしょうか。よろしゅうございますか。</p> <p>はい。そしたらですね、早速でございますけど、今日の本来の審議事項でございます、更なるインセンティブを付与した効果的な取組みの推進について、ということで議論をしていきたいと思います。まず、事務局の方から前回の議論も踏まえた上でどういう形で更に進めるべきか、資料に基づきながらですね、ご説明をいただいた後、質疑応答及びご意見をいただきたいと思います。そしてら、事務局の方、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
	事 務 局	<p>事務局説明省略</p> <p>(No.3 : 更なるインセンティブを付与した効果的な取組みの推進について)</p>
	会 長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それではですね、早速でございますけど、ただいまの説明に対しまして、ご質問等ございましたら、あるいはご意見等ございましたら、遠慮なくご質問お願いしたいと思います。</p> <p>基本的に計画としてはですね、個々の取組み、それを何とか地域あるいは学区単位での取組みに上げていって、最終的には木津川市全体のまちづくりあるいは地域づくりに役立てるような形で、単にごみを減らすということだけではなくて、まちづくりあるいは新しい産業との連携あるいは学との連携と言いますか、産官学の形の中の連携の中で新しいまちづくりを進めていこうというような形での取組みの計画を打ち出してはどうかということでございます。</p>
	委 員	<p>失礼いたします。</p> <p>大変色々なことを記入していただきまして、今後期待をしているところでありますけれども。敬意を表します。</p>

	<p>その中で、私が見ておりますのが生ごみの中で非常に水分が多い。冬場でも水分が多いということは、非常にこの頃多く感じております。その中でやはり、水切りですね、使い切りとか、この京都市のこれ「地球温暖化防止計画」というものが出てるんですけど、その中でこれを見ておりますと、生ごみ三切り運動ということでね、出しておられます。やはり、水分が非常に多くあるというふうに私も認識をしておりまして、今後この対策をですね、これは燃料費であるとかあるいは炉の方に対しても非常に悪影響が出てくるというように思いますので、この使い切る食材は使い切るためのご手法を先程から次長さんの方から話されましたんけど、食べ切りをする学校、あるいは家庭でも取組みをしていく。ごみとして出す前に水切りを必ず行うということを、これ住民の方々に色々な方法を通じて、やはりこれは炉や先程も言いましたが、燃料費に関わてくるということを、やはり 1 kg当たりどの位の水切りをすることによって、これはいわゆる経費が安くなるということも難しいかもしれませんけども、これ出ますような感じがしますので、出せるように思います。だから、その辺について何らかの方法をしていったらどうかなと思っております。</p> <p>それから学社連携と言うんですか、そういうことも非常に大切やと思うんですけども。見ておりますと、ステーションの方はこの前も環境まつりということで、ちょっと参加させていただいたんですけど、車を置ける所がないんですね。ああいうイベントをちょっとやりますと。やはり、そういうような時には加茂支所ですね。加茂支所とかは、非常に駐車場とかが多く取っておられますんで、よく色んな市の団体の会議等されておられますけど、やはりその中でそういった大きなイベントなどにつきましては、駐車場ある中で、駐車場この位ありますからこの位はいけますんやということ、人が集まってもらつてもいいんやという P R をしながら、やっていただいたらどうかなと。</p> <p>それからもう一つは、支所の中に図書館があります。この図書館とそういういわゆるステーションとですね、タイアップちゅうんですか、コラボしていって、そこのいわゆる本、環境に関する本、そういうものとかあるいは子供たちの作品を作った環境にまつわる、そういうものを展示するとか。という方法を年に何回か、やってみたらどうかと。ほんで、我々につきましても、そういうところにはお手伝いするとか、そういう方向を考えていったらどうかなと思います。</p> <p>それから雑紙の分別リサイクルにつきまして、取組みをしようとやっていたくのは非常にありがたく思っております。今も思つるんですけど、いわゆるカラー印刷がしたものは、昔は出せないということがあつたんですけども、○○委員さんに前回聞きますと、これは出していただいても今はよいということですので、そういうことの P R をしていただいて。今、捨てている方がおられます。見てましたら。やはり、そういう雑紙の中のカラー印刷をしてたかて、出しても結構ですよとか、そういうことを一つそういう P R をですね、お願いしたいなと思います。</p> <p>それから 27 年度の予算ということで、非常に盛り沢山。前進的な取組みをされるということになる。大変、敬意を表します。ごみを無くする、いわゆる環境に優しい社会ですね。それから環境に優しい住まいをですね。そういうことを取組みしていただくことで喜んでおるんですけども、もう一つ地域長の先程も話が載っておりますけども、地域長というものにつきまして、やはり行政の方と位置付けをされているということなんんですけど、その辺につきまして、やはり地域長さんの地域との連携ということで、パイプ役をもう少しそういうごみ等につきましては、一つお願いをしたいと思います。</p> <p>それから子供たちの考え方が非常に変わってくると、私はこれで思うんですけど。その点で学校教育ですね、学校の方でごみを見てますと、やはり雑草やら葉っぱですね、樹木少し摘採されたようなものが非常に沢山出ておりますので、このようなものにつきましては P T A の方で相談していただいて、堆肥化</p>
--	---

		ですね、茶畠とかそういういた農作物を作つておられるところに。私も昔ちょっと役員をしてた時に、PTAの、茶畠の方にそういう学校で出てきた葉っぱ類あるいはそういう除草類を運んで、堆肥にしていただいたという経緯もありますので。今は全部、一般廃棄物の方に、可燃ごみの中に入つておりますので、その辺の連携等も少し考えていていただいたら、どうかなど。今、若干思つていただいたことは以上です。よろしくお願ひします。
会長		はい。ありがとうございました。 事務局から何か、今のものにレスポンスか何かはありますか。
事務局		はい。それでは、失礼をいたします。 かなり適切なご意見を頂いたというふうに考えておるところです。特に水切りのことにつきましては、これまでから「もったいないプラン」での分析・調査の中でも大きな位置付けであったと思います。そういうことで、廃棄物減量等推進委員の皆様方ともご連携をしながら、特に「ぎゅっとひとしほり運動」でありますとか、そういうソフト対策をしっかりと進めていただいているところでもありますし、私共もそういう情報を探つかり発信していくような工夫は必要だというふうに考えているところであります。
		その他、沢山頂いた訳でありますけども、やはり広く市民の皆様方への情報提供というのは大切であると考えておりますので、十分参考させていただいて、進めさせていただきたいと思っております。以上です。
会長		はい。どうぞ
委員		私たち、私は廃棄物減量等推進員をやらしてもらつてあるんですけど、ぎゅっとひとしほり運動を私たちの年間のそういう行事をするためにある所を借りたり、前回はやましろまつりの時にぎゅっとひとしほり運動とごみの分別などをやりました。でも、私たちリサイクル研究委員だけやってんのには人数が足りなさ過ぎると思います。人数をどのように増やしていく、これを私たちだけの問題じゃなくて、行政の方も一応来てもらつますけど、ある意味でもう少し行政の人も力を貸していただきまして。一箇所じゃなくて、あちこちでも私たちだけじゃ人数が足りなさ過ぎて、あまりにもできるのが回数少ないので、できたら一応そういうイベントとかある時に、その場所でぎゅっとひとしほり運動を生ごみ分別とかそういうことやってますことを私たちの廃棄物減量等推進委員だけじゃなくて、行政の方からも手助けしていただいて、何人かこの日は出ていただくとかそういう形式を取つていただければ、更に普及率が高まるんじやなかろうかと思いますので、現在はやってますけども人数不足で困つておりますので、そういう点をどういうふうに人数を増やしていくかということを私は考え、皆さんのお手伝いを借りまして、増やしていくといなあと思つております。以上です。
会長		はい。ありがとうございます。 先程ありましたようにですね、前々回の中では、僕はこれをかなり大きなテーマとして取り上げてですね。チラシも作つていただいて、各戸配布をしたんですけども。是非ともこれは継続しなくちゃいけない問題ですし、かなり絞られると、先程から出でますように焼却費の節約とか、そういうことに繋がつくるんだということにある意味では、もう少し行政が説明する必要があるかもしれませんね。何のためにやってんだという形で、こんな手間かけることが何になつてるんだというふうに疑問を持たれたら、中々進みませんので、そこ関係を少しつつ、少し明快に広報か何かで繋げられるというのが一つあり得るだろうと思います。以上でございます。

		他に。どうぞ。
委 員		<p>まず、報告の感想ということで。全般としてですね、非常にまち美化の皆さん、頑張っていただいたということで、評価いたしております。一つ一つですね、前回の討議ですね、二日程かけて読み直したんですけども、会長の意見なりを非常によくまとめていただいてですね、その辺で一定の努力ということは認めるんですけど。</p> <p>例えば、講習会何かとかでね、一定のやる場合につきまして、モニター制度ということをやっていくということや。それから学校につきましてもね、城山台小学校をエコ・スクールとしてやっていくという色々な提案ございまして、予算化についてもやっていくということで。もう一つ踏み込んでいただきたいのが、学校につきましてもね、城山台小学校だけ違ごて。私、この間の質問ですね、学校さんの残飯はどうしてはるんですかということで、事務局の方に聞きましたら、「いや分かりません。普通の燃やすごみに出してはる。」ということで、これで非常にがっかりしましてね、棚倉小学校であろうが他のいろんな中学校におきましても、そういうふうなごみが出ます。これにつきましては、城山台小学校だけ違ごてですね、一遍、皆で考えてやってみようやないかということでね。まち美化の方から考えよと言うのと違ごてですね、校長先生含めて地域も含めて、やっていこうという、そういう気運が一番大事なんですけど。これにつきましてね、城山台小学校だけ違ごて、来年から全小中学校ですね、私立も含めましてね、やっていこうというPRですね、呼びかけ。これで頑張っていただきたいと思います。</p> <p>それからこの中で、学校における環境活動における報酬制度・ポイント制度ということでね、予算ではということで話したんですけど、実際に生ごみなんかごみ回収が有料化になりました場合にですね、学校につきましては水道とか電気と同じようにそういう予算数値になると思うんですね。それ以上出せへんとか、そういうことになるんと思うんですけども。それは将来の話になると思うんですけどね。一定のポイント制度ということ、これについてはね、一般市民についてもやっぱり頑張っていただいている地域とかサークルあるいは個人についてね、そのいわゆるポイント制度いうんかな、その辺を将来的に施行していただいたら、どうかなと思います。</p> <p>それから先程、水切りにつきまして○○委員の方から推進委員の方で本当に数は少ないですけども、やましろまつりとか色んなイベントでやってはりまして、こういう環境の関係ですね、いろんな京都府南部にグループあります。まあ、あくまでも任意団体ですけど。こういういろんなものの再利用とかということで非常に毎月毎月やってはって、この辺の水切りにつきましてはね、やっぱり部長でもいいし市長でもいいし、何かイベントでね、何と言うか市長やってるんやでということでね、そういうことような何か、広報のあり方と言うかね、そういうようなパフォーマンス。これが必要なんじゃないかと思います。</p> <p>ほんで、ごみを減らすこと、水が相当多いということ、これはもう資料に出てるんやからな。そういうたパフォーマンスや広報を活かしていくといえ、そういう取組みをもっとなさっていいんやないかと。</p> <p>それから最後に、何と言うか、私の意見がまだまだ理解していただけないのが。どういうことかと言うと、この間も中央体育館で免許証の更新がある訳ですね、それが11月やったか10月やったか忘れましたけどね。秋に落ち葉を集めていますが、これはどうなるんかな、多分燃えるごみかなあと。その辺につきましてもね、公園課とか、色々な秋とか冬には落ち葉が出ます。これについては堆肥化するとかね、そういう学校だけ違ごて公園課あるいは税金とかそういう職場におきましてはですね、雑紙の関係で私たちなんかも税金これからクレジットの請求が一杯来ます。これはシュレッダーでやっても、燃えるごみに出す場所がない。この辺についてもね、府内でもそういった守秘義務の</p>

	<p>処理なんかがあるんやけど、それがどういう形でね、いや、やっぱり活用していかなあかんということでやってはるんか。その辺の指針ちゅうんかね。一番最初に組織作りということで、提案が出ていますけれども、この組織作りにつきましてはですね、やっぱり地域のそういう組織もあるねんけども、まち美化さんがですね、そういったごみ減量の推進のそいつた本部というか、そういう固い意識に基づきましてね、地球温暖化等のその辺の目標も含めてですね、来年については何%減らしていくんやと。そういうような意気込みがですね、推進本部、まち美化をね、作っていかなあかんということで、今回のこの辺の提案については非常によく勉強しあって、考案されたんですけど、もっともっと広くやつていかなあかんということが私の意見です。よろしくお願ひします。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございます。他にございますでしょうか。</p> <p>幾つかですね、重要なご指摘を頂いたような気がします。特にですね、人づくりの問題ですね。もう一つは組織作りの問題。そして、それからシステム作っていくという問題ですけど。</p> <p>特に小学校を中心にやっていく場合ですね、どうしても小学校がやるかやらないかは教育委員会の方の管轄ですので、中々まち美化の方ですと、部署のご意見を中々聞いてくれない。言い換えると、それを活かせると、校長先生の中に理解があればですね、進められるということが一つあるのと。</p> <p>もう一つは小学校そのものの中でごみを減らすためとかそういうための予算がないんですね。そのために中々、取組みというのはできない。そういう面からいようと、先程仰ったようにある程度予算を付けたり、あるいはポイント制度を使うということですけども、特にですね、地方自治体がやってんのはあるいは概念だけかもしれませんけど、いわゆるハーフ・アンド・ハーフという考え方がありまして。予算貰った内の半分はその予算頂いたところの自由裁量の範囲内でそれを使っていくということですね。より使い易いような形の予算の使い方を心掛けるという、そういう形のですね、試みも概念があるあるいは実際やってるかどうかはちょっと私も詳細は知りませんけど、そういう形とポイント制度を活用して。まあ言い換えると、先程ゲーム感覚という言い方もこの中でされますけども、いわゆる人のやる気を出させる形の中の人づくりあるいはそういう人をリーダーに養成して。そういう面から言うと、まず人づくりをやる中では、先程○○委員も仰られたように中々それをやっていくためのリーダーを育てないことにはですね、皆それぞれでやって下さいと言っても、中々進まない。そういう面から言うと、講習会というのはそういうこともやられますからその中でリーダーを育てながら、その人たちを中心にしながら広がっていくような、そのような形での人づくりなりですね、あるいは組織づくりだというのは非常に重要だううと思います。</p> <p>特にごみの問題というのはですね、行政がああせいこうせい言うても、中々できるものではありません。元々、行政というものはですね、画一的に追求をしますと、行政サービスを提供するということですけど、これは一方的で何も市民の意見を聞かない、そのためにせっかく良いことをやっていても、中々市民に理解されない。そういう面から言いますとね、一般的に上手くいかないと言われていたんですけど、ノーベル経済学賞を貰いました女性のエリノア・オストロムという人がですね、いやそうじゃないんだと、行政のサービスというのは確かにそういう面で画一的で非効率的だと、お役所仕事だと言われるけれども。しかし、それを市民の意見を聞きながらですね、進めていくことによって、より効率的になることということを言っています。これはデンマークなんかでは「ユーザー民主主義」という言葉に、コックなんかは言っているんですけど。ごみの問題というのは、行政が如何に市民の声を聞きながら、そしてその中でオストロムの言葉を使うと「コンプロダクション」ですね、日本では「協働」というふうに訳されてますますけど。共に働くという形でなされてま</p>

		<p>す。そういうことを追及して、そういう面からいようと、「パートナーシップ」という形よりもむしろお互いにですね、それぞれができることをどういう形で連携を進めることができるのか。そういう形の中でそういうことの市民とそれから行政を結ぶような、そういうリーダーをですね、何らかの形で講習会なり色々な場を捕まえて、ある意味では育てていくことが非常に重要だろうというよう聞いておりまして、思いました。そういう面では、ごみの問題というのは相手がいると。その相手とどうやってですね、お互いに価値を共有していくかという形の中で進めていく。それがおそらくごみの理解を深める上において重要なことだろうと。そういう面で行政がどういう情報を出すかということは、非常に重要な問題ですので、もう少し市民が分かるような形で理解してやっていく、やる気を起こすような、そういう政策に少しずつステップアップしていくだけたらなと思います。</p> <p>他にありますでしょうか。</p>
委 員		はい。
会 長		はい。どうぞ。
委 員		<p>N o. 3ですね、「更なるインセンティブを付与した効果的な取組みの推進について」というところで、具体的な取組みの方向性4つが挙げられておるんですが、その中ですね、京都大学等研究所とのコラボレーションというところですね。これ先程説明にあったように京都大学の農場ですか。何か24.6ヘクタール、どの位あるのか、かなり大きいのだと思うんですけど。という所から出来てくるんですよね。そうすると、ここに農場が出てくるとですね、農業廃棄物の処理にはどうしてもこれかかってくると思うんですけど、現在の焼却場が新しく鹿背山の方に将来できるということなんですが、何かこれが出てくるとものすごく増える訳ですよね。現実の廃棄物の量が。ここに研究所ができて、ここで研究するというのは中々皮肉な感じがしますね。この辺あたり主張されてないから、考えられたらどうですかね。というふうに私、今思っています。</p>
会 長		まあ、鹿背山には入らないと思います。
委 員		そうですか。
会 長		はい。産廃の方になりますので。
委 員		<p>大学が沢山出すと聞いたことがあるんですけど。 小さな研究所や小学校であれば、大したことないと思うんですけど。</p>
会 長		京大はですね、正に浅利さんが一生懸命頑張ってまして、かなり大学の中ではごみを減らす、大学の中で。日本の中の大学の中でもかなり、千葉大学と一緒にですね、評価されている大学ですので。
委 員		そう言われますと、安心しました。
会 長		<p>事業系になるから、ないです。 そういう面から言うと、農業系の廃棄物、特に動物のし尿であるとか、それからこういう形の有機廃棄物ですね。これはどちらかと言うと、発酵させて、そしてここではエネルギーに変えてという形の構想を持っておられるというような形ですね。むしろ、こういう形のあれをやるのは北海道の大学には非常に</p>

	<p>多いんですけど。帯広の畜産大学とかですね。北海道はやっぱり農場が多いですで、牧場が多いのですで、そういう畜産系のやつが多いですね。そういうところの中で、できるだけエネルギーに変えていくという、そして温室とかそういうものに使っていく。CO₂等を考慮した上での新しい農業の取組みの方向性を創り出されるだろうと思いますので。これを何とかですね、そういう取組みの中で付加価値の高い農産物がこういう技術的な所から出てきた場合、それをどうやって近郊農家がですね、それを自らの農業の中に活かしていくかというのは非常に大きなメリットだろうと思いますので、そういう面での連携の方がむしろ重要な意味を持つような気がしますね。</p> <p>他にございますでしょうか。そういう面から言うと、そういう形のものができて、有機的なものでいう形であれば。まあ地産地消がいようと、イオンさんに買ってもらうとかですね、色々な形があるのは他のスーパーさんも含めてお願いをして、地域の中で循環するというのは一つありますけれどね。</p> <p>そうすると、ごみの問題が農家・農業を活性化し、そして商業を活性化するという形の仕組みを作っていくと、これも一つのまちづくりになります。アメリカでは、ウイックスという有名な人なんですが、いわゆるフィラデルフィアでですね、彼女はホワイト・ドック・カフェというレストランを作って、そこへ全部、自分ところの食材を全部地元産にして、という形のローカル・リビング・エコノミーという生きた地域経済という概念を出して、非常に取組みが全世界、ユーチューブを見ますと、かなり載っているですけども。ユーチューブの中では、そのレストランのメニューも載っていますし、店の中もレストランの中とか、彼女のフィロソフィーも作られています。</p> <p>そういう面から言うと、正にそういう形でできれば、新しい地域の連携・地域づくりの中でのごみ減らしと言いますか、そういう形での新しい木津川モデルができるんじゃないかというような気がします。そういう面では、個人的な取組みから次第にそういうまちづくりに繋がっていくような形でのモデルづくりというのが一つ今から求められる。特に地域再生という言葉が出ている中で口を開けて、国からお金を貰っていても地域再生はできません。むしろ、やはり地域の中でそういう人づくりであるとか組織づくりであるとかシステムづくりという形から言うと、正に国とは違った地域再生・地域づくりという形の中で、これも一つのそういう計画の中の一つにまとめていくというのは非常に重要な意味を持つんだろうという気がします。是非とも皆様方のアイディアをですね、こういうこともやったらどうかという形でこういう産業に結び付けたらどうかということも今から考えていかなくちゃいけないだろうと思います。</p> <p>何でもですね、そういう面ありましたら、よろしくお願いしたいと思います。はい。どうぞ。</p>
委 員	<p>私は先程も言いましたけれども、廃棄物減量等推進委員やらしてもらっているんですけど。思うことなんんですけど、リサイクル研修ステーションへ子供たちがもう少し、4年か5年になったらそういう環境の勉強をするんですよね、そういうことでやっぱり知らない子供、親も知らないし子供も割と知らないし、これから世代を担っていく子供たちにそういうことをしている場所があるということをね、やっぱし知ってもらうということで。木津川市では、割と3～4校位しか見学に来ておられないということで、13校もあるので、やっぱしどういう具合にごみというのがこうなってこうなって色々にこう再生されてこうなるというね、そういうのもありますので、子供に見てもらうということと、それをまた親に、子供また親にまたね、来て良かったとか家の中でしゃべったね、そのことはものすごく良いことだと思うんですよ。ほんでね、子供たちをね、もう少し勉強のためにも、また今後の子供たちのまた大人になっても子供に感じたことはずっと覚えてますもんね。そういうことでリサイクル研修ス</p>

		<p>テーションへもう少し皆、目を向けて、来ていただけたら、ありがたいなといつも思っています。いつも会議、役員会をして、またその次の最初の第二木曜日はね、定例会やって、色んな料理のね、色々やっているんですけどね。子供が割と来てくれないんですよ。せやから、見に来て勉強してもうたら、こんな所があんねや面白いなあとかね。そういうところを見てもらうところもあるんですよ。紙芝居もね、来てくれたはいたら、やるようなこうなっている紙芝居も作っておりますのでね。来てくれる日にちが分かったら、我々またね、そういう紙芝居にも協力してね、したいと思いますので、身近なことからちょっとずつやっていかないと。大きなことは一番良いことですけどね。そういうことをやっぱし、とりあえず広報にもね、そういうことやってはるということを知つてはる人は知つてはるんですけど、全く知らない人もいると思うんですよ。リサイクル研修ステーションの場所すら。だから、もう少し興味持つていただけたら、ありがたいなあと思っております。</p>
会 長		前も出てきましたように、リサイクル研修ステーションをどうやって活用するかというのは、非常に大きな意味を持っていますよね。
委 員		そういうことです。
会 長		<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>京都市ではですね、これは産業廃棄物の方の関連になりますけれども。最近は必ずしも、そうとは限らないんですけど。いわゆる産業廃棄物っていうのは、これは企業が出るものであって、家庭に関係がないということで。中々市民が産業廃棄物についてですね、目を、気を配ることはない。しかし、実際には私たちが家を替え、解体をするということになれば、これは産業廃棄物になってというような、あれもあって。何とか産業廃棄物っていうのは、市民の問題ですよということで、にも係わってますよということですね、実際に産業廃棄物をどうやって市民に分かってもらおうという形の中で、一つやったのが見学会があるんですよね。いわゆる産業廃棄物なり、あるいはもう最近は産業廃棄物に限つていませんように、一般廃棄物もそうですけど。家庭から出てきたものが本当にリサイクルされてんのかどうか。出してるけど、ちゃんとなされているのかどうか。それをちゃんとですね、見学会で見せようと。それからちゃんと埋立をしてんのか。どういう処理で埋め立てがされてんのかと。それをですね、見せる。</p> <p>先程、おっしゃったようにですね、4年生のあれというのは、ほとんどが焼却炉なり焼却工場なりに行ってですね、すごい巨大なクレーンが動いていて、それでコンピューターを使ってやっているちゅうことで、技術に驚いて帰ってくるのは子供たちで。肝心のごみをどうやって減らすかは、中々出てこない。それですね、基本的にそういう見学会を開こうということで、最近はですね、イオンさんの裏でごみがどういう風に処理されているか、分けられてるか、そういうとこの裏方まで見せてもらうような形までなってます。だから、そういう面から言うと、正に講習会講習会と勉強勉強だけでなくてですね、今おっしゃったようにまずはリサイクルセンターでちょっとした勉強をして、そして後は幾つかそういうリサイクルしてある所への見学会ですね。あるいは、場合によつては巨大な高の原のあそこのスーパーでどういう風にごみが出てきて、それがどういう風に集められて、どこに行ってんのかということ。あるいはアライの森さんところの中でどういうことをやられて、どういうことがあるのか。そういうことを合わせると、現場の人から聞いたらですね、ああこんな分け方はあかんのやなというようなことは、一番説得力があるんですよね、現場を見せると。だから、そういう面から言うと、少し見学会なりそれをやればいい。大体、京都市では、夏休みに子供たちの募集があります。子供たちは、</p>

		<p>そういう面から言うと、宿題の一つとしてお母さんと一緒に来て、やっていくという子もいるみたいで。テーマとして捉えていることになります。大人の方はもう少しですね、秋口位になります、位にやっていると思います。まあ最近はどうも、月桂冠とかああいう所に行くと、お酒も飲めるなあということでですね、人気が高まってきている。どこを見学先に選んでいるのか分かりませんけれども。そういう形の中で、否が応でも少し皆の関心度が出てくるんじやないかという気がします。講習会講習会も良いですけども、正にそういう形ですね、市の施設でも構いません。そういう形の見学会を考えられてという形なら、楽しみながら、そういう面でごみを学んでいくという、そういう工夫が必要なんじやないですかね。</p> <p>はい。どうぞ。</p>
委 員		<p>先程、会長がおっしゃっていた見学等の話。うちの会社にも小学校から見学に来られたケースが何回かありますて、その時に説明と紙が一体何から出来ているかというのを小学校の子供たちに説明したところ、非常に驚いたということで、紙が元々木でできているということを皆さん知らないと。そこで紙1トンに対して、樹木約23本、木が必要だということを言うと、非常に驚いて。これは紙をしっかりとリサイクルしなければいけないなというご意見を沢山頂きました。その後、工場見学。そちらの方も先生と一緒に見学してもらいました。こんなに大変なのかと、ということを分かってくれたり。私自身も見学会を開催させていただいて、非常に学ぶことが多かったというか、子供ですからもうストレートに入ってくるというか、言いたいこともばつとズバッと言う感じで、非常に感慨深かったのを覚えています。もし、そういったご協力させていただくことがあれば、是非ともさせていただけると思いますので、またよろしくお願ひしたいと思います。</p>
会 長		それはもう小学校の先生から直接、見せて欲しいという。
委 員		はい。そうです。クラス単位でクラスの担任の先生から頂きました。はい。
会 長		熱心な先生はそうやってやられるんですけどね。学校全体になると、でけへんとかですね、責任の問題がどうとか、子供たちがそんな所で怪我したらどうするんやとか、そういうことが起こるんですよね。
委 員		よろしいですか。
会 長		どうぞ。
委 員		<p>本当にね、まとめていただいたもの、こんな風になつたら良いなという感じで、まとめていただいたなと思っておりまして。私は、この雑紙レンジャーにすごい期待をしております。</p> <p>これもまた食育の方の、全く関係ないことなんですけど、料理でごみが出ないようにすることを昔、環境フェスティバル、京都の環境フェスティバルの方へ子供たち、エコクラブの子供たちを集めて、されたことがあります。その時、またまた聞いてた方が、そのメンバーにもならない幼稚園の子が覚えていて、いまだにお母さんの横に立って、これはまだ食べれるとかという風に声かけてくれる。小さいの子の意見というのは、もうお母さん、聞かざるを得ないので、すごく役に立つと思いますし、本当にそれぞれの色んなグループが活動することも大事ですけど、小学校でそういう風な全体に、子供たちに声かけていただくと、より広く浸透することは間違いないと思いますので、是非それを続けていっていただきたいなと思います。</p>

	<p>やっぱり、何と言っても、今ここで私たち熱心に話し合ってますけど、普通のおばちゃんの感覚で言うと、三大阶段何でごみ減らさんとあかんのっていう、まあ少ないに越したことはないけど、っていう思いの人が大半だと思うので、繰り返し繰り返し、今ごみが増え過ぎて困っているということは伝えていって欲しいと思いますし。この前、地域長さんを通して、雑紙袋を配っていただいた時にも一緒にもったいないのでという、紙は貴重な資源ですという、チラシを貰ったんですけど、例えばここに今こんなけお金、木津川市でごみ燃やすのに使ってますよとか。そういうようなことも書いてもらいたら、大変なんだなというのを。三大阶段まだ皆、関心がないものと思って、扱っていただいた方がいいのかなって。水切りの話にしても、繰り返し繰り返し飽きずにしていただくことを、是非お願いしたいと思いますし。関心のある人でも実際やっぱり、出せる紙、出せない紙ということは細かいところですけども、気付かずにおられる方もありますし。私自身、臭いの付いた紙が駄目だっていうのは、この会、こここの場で初めて知った位で、関心持っていたつもりなのに分からなかつたなと思うことも一杯あるので、是非繰り返しお願いしたいと思いますし。</p> <p>また、生ごみの色んなモニターの話を広報なんかで、やっている過程だとか結果だとか。是非是非、皆さんに知れる形で広報していっていただきたいなと思います。</p>
会 長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>そういう広報のあり方が非常に重要な問題で。他の地域ではですね、幾つか子供たちの関心を引くためのごみレンジャーが沢山いますので、木津川もですね、水切りレンジャーとですね雑紙レンジャーをですね、ちょうど6人いらっしゃりますので、三人ずつ水切りレンジャーの格好とそれからもう一つはですね雑紙レンジャーになってもらったらですね、正におそらく効果は高いと思います。特に先程、○○委員がおっしゃたようにですね、イベントの時にあれをすると、駐車場が足りない位になるかもしれませんので、是非ともですね、そういうぬいぐるみを使ってですね。あるいはぬいぐるみというか何というか。</p> <p>是非ともですね、木津川発の水切りレンジャーと雑紙レンジャーをですね、作っていただけたらと思います。招いた子供たちにですね、どういうデザインが良いのか、ポスターで募集をされても面白いかもしれませんね。</p>
委 員	私、でも全然違うイメージを持ってたんですけどね、レンジャーに対して。
会 長	あっ、そう。
委 員	あの、子供たち自身がレンジャーにならはるんかなと思っていました。
委 員	そうですね。
委 員	そうですね。子供がレンジャーになれたら、すごい格好良いなって。はい。
会 長	そうか。そうしたら、その方法も一つありますね。募集して。
委 員	上手いこと、先生方に持ち上げていただいて、僕はレンジャーだから地域の活動を。
会 長	小学校に一人ずつ、そういうレンジャーを任命したら良いですね。市長が。
委 員	そう。

	委 員	そうかそうか、そんなんが。
	会 長	そしたら、その格好ができるということで、小学校の中ですね、その衣装が着れるちゅうんやったら、ひょっとしたら子供たちもなりたがるかもしれません。
	委 員	衣装にまでいかなくても、バッチ一つで子供は満足だと思います。はい。
	会 長	そうですね。バッチでも良いですね。 昔はそういうごみ当番とか色々な当番がいましたけど、今はごみ掃除しなくなつたんですね、小学校。だから、そういう面から言うと、ちゃんとそういう形をあれさせて。我々は廊下拭きとか色々やりましたけども、今はやらないんですよね。ですよね、小学校。 何かレンジャーですね、親玉はおそらくまち美化だろうと思いますけど。ゴレンジャーを沢山作ってもらつたら。
	委 員	レンジャーは行政の人にしてもらつたら、あとはこう子供たちに。
	会 長	そうそう。それがゲーム感覚じゃないですか。 決まり。課長、何なりたいですか。水切りの方ですか、雑紙の方ですか。まあ、冗談はこの位に。
	委 員	ちょっと、よろしい。
	会 長	どうぞ。
	委 員	女性の方から非常に色々なご意見出ておりますので、ちょっと私、色々考えておるんですけど。いわゆる賞味期限ですか、それ切れたのが出るよう、そのごみの掃除を見ましたら、非常に多くあるんですよね。賞味期限が切れた、何も手付かずのものが捨てられてるというんですけども、その辺のことについてどのような対応というかPRちゅうんですか。そういうことをしたら、どうかなというふうに思うんですけども。 それともう一点は、これやはり委員会なりで、募集なりしていただいて、この前も清掃センターの見学会あったんですけども、まあ非常に少なかつたんですけども、今度この色々な実証実験なりされますので、やはりこれは一年に一回位はこういった所を市内のこういう生ごみを学校でやっておられるとか堆肥にしておられるとか、あるいはこういう実証実験をやられておられるところについての見学会をしていただいたら、どうかなと思うんですけど、よろしくお願ひします。以上です。
	会 長	手付かずは、浅利さんが得意なので。
	副 会 長	はい。ありがとうございます。 あのおっしゃる通り、手付かずの食品、まちにもよるんですけども、二割とか位は出でますね。賞味期限前のものもあるんですけど、やはり賞味期限切れ、それを見て捨てる人が多いですね。一つ、アンケートとかしても、賞味期限と消費期限との見分けがまだ付かないとか、頭で分かっていても行動には移らないというところがあるのかな。あと思い込みでこれはもう生ものっぽいので、消費期限に違いないと思っているけど、実はもう最近は保存剤が多いので、というところがあると思いますので、その辺りは呼びかける余地があるん

	<p>じやないかと。最近、家庭科の教科書に掲載されるようになったと聞いているんですけど、大人の方が知らない部分があるんじゃないかなという風に思いますので、買い物から変えていくというのは非常に重要だと思います。そういう意味では、全体のこの施策、全体の中でリデュースの視点が若干弱いのかなという印象は持ちました。</p> <p>あと結構、生ごみ、今ちょっと流れで行きますと、生ごみをできるだけ家庭とかで、大きい施設をこうドーンと導入するのではなくて、皆に協力していただいて減らしていくコトというコンセプトなのかなと、まずは思うんですけども、中々どこもこれやってみるんですけど、まあそう簡単には上手くいかないということが多くて、皆さん手探りでされてる中で成果が見られるところもあるのかなと思いますね。ここでも色んな幾つかのオプションを出してもらってますけど、もっと家庭に設置し易い手回し式のものとか、色々出てきているので、とにかく沢山あるんで、自分にあったのを使ってもらえるようにしていく。場合によっては、例えば、そういうのをまずお試しで貸し出してみてですね、使えるというのを購入とか補助で持って帰ってもらうみたいな、そんなこともあってもいいのかって。あと、モニターに関しても、京都でも色んな形でやってみてるんですけども、アドバイザーが教えるというのも良いんですけど、本当にそのモニターの皆で一緒にやってみようという形でやる方が心理的にハードルが低いなっていうのは、やってみて思いました。皆でとにかく失敗してみてもいいから、それぞれのやり方でやってみようということでやって、また成果を持ち帰ったり、これはちょっとうちはあかんかったとかこういう風にやったら上手くいったよというのを、ちょっとお茶でも飲みながら、やってみるみたいな形も良いんじゃないかなと思いました。あと、場所的にもですね、今のリサイクル研修ステーションをもうちょっとイメージを変えていって、まあ名前も含めてカフェ的な感じなのか、まあおばちゃんたちが集まり易いような感じなのか、京大のあれも来るので朝市とかに使ってみるとかも含めて、そろそろ考えてもいいのかなとか。あと、海外とかでは、有機系のレストランとかに生ごみそのものとか堆肥を持ってたら、割引が貰えるようなそんな取組みもあったりするので、参考にしていただけたらと。</p> <p>あと、うちの大学では、ご心配いただきましたけども、そんなに人数来ないんで、多分そんなに出ないと思うんですけど、一応本部のキャンパスの方でも今まで落ち葉を全部燃やしていたのをミミズとかを使って、落ち葉の堆肥化をやって、それをグリーンカーテンに使うというようなこともやっておりますので、学校だったらミミズのを使って見るのもいいのかなというように思いました。参考にしていただければと。</p>
会長	<p>ありがとうございます。 少しずつですね、見えてきたような気がしますので、是非とももう少しアイディアございましたら、言っていただけたらと思います。</p>
委員	よろしいですか。
会長	はい。どうぞ。
委員	些細なことですけど、本当素朴なアイディアですけどね。非常にこのパッカー車ですね、見ておりましたら、木津川市のパッカー車は非常に綺麗です。集めておられる時も非常に臭いもしませんし、水垂れもないですわ。だから、ほんで何か音楽は流して来てくれるんですけどね、その音楽ちゅうのももう一つ分かりにくいくらいんですけども、ごみの収集車が来られたなということはイメージで分かります。その中で私はまたにですね、そのずうっと流したらまた騒音でどうのこうのまた出てくるか分かりませんけども、ごみの水切りとかあるいは

		はごみの減量あるいはそういうリサイクルしますとかいうその、ああいうちょうど良いP R車が走っているんですからね、いわゆる業者は集めに来ましたよ集めに来ましたよって言うて、集めるようなことで回ってますわな。だから、こういう委託をされた業者の方にも、回っていただくのがちょうどよろしいと思うんですね、P Rをする。そういう方向というのは、できるのかどうか、それは業者さんとのタイアップですけど。そういう素朴なことですけども。というのは何で思ったんか言うたら、京都市にこの前、行った時にバス乗ってましたら、京都市役所の辺りですね、バスの中で、市バスで鳴らさはるんですね、ごみについてのことを。だから、そういう発想がね、パンと私は来たんです。だから、そういうことも一つ、どっかの駅の横を通った時は鳴らすとか、あるいはそういう集会所・公民館付近では鳴らすとか、そういうポイント的に鳴らしていったら、そういうイメージにええのかなあと思いました。以上です。
会長		ありがとうございます。 はい。どうぞ。
委員		私、今言ってくれた人のお名前ちょっと分からないですけど。
会長		○○さんですね。
委員		感じたんですけど、パッカー車が音楽鳴ってくると、来やはったなということは大体分かるんですけどね。それに因んで一週間はぎゅっと三絞りしましょうとか、そういう音楽を流しもって走らはって、一週間そうして。今度はまたね、違う感じでね、まあ言うたら生ごみの出し方やったら、次はまたそういう段ボールの出し方とか、そういうことをまた一週間置きに。そういうのをね、流さはって、パッカー車が走ってもうた方が効果的じやなかろうかって、今感じたんですけど。やってみないと分からないんですけどね、皆どう思はるのか。だから、そういう方法も今、言ってくれはったから。バスの中で流してはるんねやったら、そのパッカー車の時にそういう何の音楽鳴ってんのか、えろう分からんねんけども、そういうのを流してもうたら、ハッと気が付くこともあるんじやなかろうかと思いました。はい。
委員		すみません。
会長		はい。それでは、どっちからいきましょうか。どうぞ
委員		すみません。 いつも、ここに来させてもらって、自分の反省をさせていただくんんですけど、子供を持つ親として、自分自身のごみ出しとかというのを改めないといけないなと思うんですけど。私、実は3人の子供を持ってますけど、木津川市に長らく住んでますけど、恥ずかしい話、今、この水切り、ぎゅっと一絞り運動っていうのは初めてここで耳にした状況なんです。すみません、本当に自分の反省であれんですけど。でも、同じことが結局、この。私たち、私は木津川市PTA連絡協議会として来させていただいている訳んですけど、保護者の目線で本当に同じような人はきっと多いんじゃないかなっていうふうに。私たち、その普段の会話の中にごみの問題であったり、この水切りとかこんなしてるよねとかいうのはあんまり聞いたことがない。話題にすることが正直ないかなというふうに感じたのが現状かなというふうに思ったので、そこにやっぱりアプローチする方法という、先程から一杯出てる広報っていうところんですけど、大概色々なものが広報に、私も結構広報を読む方なんですけども、パーと流して見

	<p>てた時には見落としているものというのは一杯あるかなと思った中に、耳から聞くという形の今の提案というのは、すごく良いかなと思うので、まちの至る所で自然と耳に入ってくるっていうような形というのは、すごくあの、またこれ違った視点、目で見るばかりではなくて、耳から入てくるという視点はとても良い視点じゃないかなと思ったのが現状です、感じました。</p> <p>もう一点、リサイクル研修ステーションへの子供らの見学というのは、うちの子供は行った方だったので、全校、行っているもんだと思ってたら、来てないということを今お聞きして、ビックリした感じはありますので、そこはやっぱりまち美化さんの方からでないと。教育委員会等々ともっとこうコラボというか連携されて、木津川市の子供たちが3年生になったら、まち見学であったりとか3・4つすごい社会見学が一杯入ってくる中で子供たち結構すごく学んできているなというのは私自身も感じる中で、あそこ行ってこんななんんだとかここ行ってこんなだったとかっていう、その子供たちの意識を変えて、そこから親が変わっていくというのは、確かにそうかなって思うので、そういうところをもっと上手く活用されたらどうなのかなというふうには感じました。</p> <p>あと、その個人での変えていかないといけない。私自身も変わっていかないといけないというところなんですけども、さっき体育館かどっかのどこどこの落ち葉ってどこに行くんやろなって気にされてるとかっておっしゃってた通り、学校であったりとか公園であったりとか、この木津川市内、市役所内での取組みというのがどうなっているのかっていうのを私自身の中では見えない状況になっているので、やっぱり公共のところが如何にそのやっていかはるかつていうところを見て、おっやってはるんやってことを知ったことによって、うちもやっぱりやらなあかんなというふうに一家庭の小割するんじやなくて、やっぱりそのコアのところがもっと率先してするということは、必要なんじやないかなとお聞きして、感じたことになります。はい。反省して、これからも続けます。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございます。 それでは、○○委員。</p>
委員	<p>はい。各委員の意見を聞いてね、手を挙げさせていただいたんですけど、先程の方の水切りも知らなかつたということと合わせて、子と親の方でもっともっとやってくれはったら、家庭でもできる。これは非常にね、良い意見やと思います。それから○○委員の方から市バスでごみを減らそう何とかということで、このアピール、うわあ、これすごいなって思いました。それからパッカー車でも何ちゅう音楽か忘れましたけども、そういう系のものでもいいし。それから思ってたんですけど、京都市がそういうような面白い発想ちゅうんか、まち美化さんちゅうか職員だけ違ごて、市民の色んな知識が入ってるんやないかなと思うんです。これなんかも京都市のパンフレット、ごみを減らす入門書なんですね、中にはごみ減量推進会議って市民会議があるみたいんですけども、ある意味で楽しくごみを減らそうということでね、まあパフォーマンスだけで言てるん違うんですけども、ここの審議会にね、学校の先生方なんか入っていただいて、木津川市のごみを楽しく減らそうとかね、環境を良くしようとか。やっぱりそういう発想、広い発想ということからしたら、何かこういうごみを減らそう座談会ちゅうんですか。まあ、推進会議とかそんな難しい会議のうてもね、何か集まれて本当に知識を出して、まち美化さんもそれええこっちゃなっていう、そういうようなね座談会ちゅうか、そういうような会議ちゅうんですか、これ作らはったら、もっと楽しくできるんやないかと思います。それからキャラクターちゅうんですかね、市の職員さんもね、色々環境週間とか何とか週間とかあります。色々なイベントも市長さんとか部長さんとか出て</p>

		はりますけどね、そこでちょっと一言、何かやらはったらね。ひょっとすれば、市の職員さん自身がね、何かの時に面白くやらはいたら、あつ面白いやつちやな、そやごみ減らさななかんなどかね。そうなってくるんでね、そういうような取組みちゅうんかね。また職員さん自身も何か市民と親近感を抱いてですね、仕事も励んでということになりますし、また市民もおおっ頑張ってということになると思うんでね。その辺、何かこの場でこんな発言するの初めてですけどね、組織づくりやらはったらどうかなって思います。以上です。
会長		はい。ありがとうございます。 他にございますでしょうか。事業者の方から、先程新井さんの方から見学については受入オッケーだよというあれですけども、皆さん方のところ、他の委員の皆さん方のところでそういう形の取組みなり要望というのか、そういうのはございますでしょうか。あるいは、そういうことがあったら、自分のところが引き受けても良いよというのは。
委員		私は事業者と言いましても、一つの小さなお店の店主ですので、このような取組み云々というのには、あんまりね関係ないというかそれはまたそれなんですけど。実は私、この審議会に来させていただいて、中々ね、今まで発言なんかさせていただかなかったんですけど、ものすごく高度なレベルの会議の内容であったので、頭痛が起きそうになっております。 僕、かねがね思ってたんは、ちょっと前の映画の台詞じゃないんですけど、事件は会議室で起こってるんじゃないというのと同じで現場主義ですね。当然ながら住民の方々、ごみを減らすにはどうしたらいいのかということで、家庭ごみ、燃やすごみの中に雑紙とかがかなりの量が入っていると。これを除ければよいと、考えてますね。で、それができないというのは、もちろん住民の方は面倒臭い・分かってないっていうのがほとんどだと思って、やればできると思うんです。私もファックス入ってきた普通のA4の紙は、用件が済んだら、4分の1かに切って、メモ用紙に使ってるんです。そこまではいいんですけど、そのメモ用紙で使ったその後、ごみ箱に捨ててるんですよね。これを、先程ありました雑紙用の袋とかを配布していただきなくとも、自分の意思さえあれば、そういう紙袋を用意すればいいということが分かっているので、如何にしてそれを実践するかという。それを実践させるためには、行政側がアピールをどうしましようと、ぎゅっと水を絞るというのんも方法が中々、分かっておられない方も多いと思うので、簡単なことですよということでアピールしていくって、それを酸っぱく言うしかないなと、僕は今まで思っていたんです。けど、今日の会議の皆さん方の意見を聞いたら、やっぱり会議は必要やなと。色々な意見が出ましてね、僕のレベルに合った意見が出たんですよ。
会長		子供たちを上手いこと操って、缶バッヂでこう揺さ振りかけるとか、先程のパッカー車の音楽、あれ多分ね、夕焼け小焼けの赤トンボやったと思うんですけど、朝に回って来やはるのに夕焼け小焼けなんんなかって、ちょっと疑問があった部分もあったんですけど、まああの音楽、割と聞き易いし定着していると思うんです。だから、ものすごい単純で簡単な方法が一番だと思うんですね。やっぱり如何にして、ごみを減らすかという雑紙を除けるとか水切りをするとかいうのも口を酸っぱく言い続けるしかないのかなというのが僕の考えなんです。以上です。
委員		どうも。ありがとうございます。他にございますか。 はい。それではどうぞ。
		給食センターの厨芥生ごみのごみの処理課題ということになつてますね。これ燃やすごみとして、3か所の内2箇所はとりあえず、やつてることで

	すけど、どこどこですか、処理機でやっているところは。それ、ちょっとお聞きしたいと思います。
事務局	山城・木津・加茂と3か所あります。生ごみ処理機入っているのが山城と加茂。
委員	山城と加茂。
事務局	はい。
委員	では、木津は入ってないんですね。
事務局	木津は入ってないんです。
委員	ああ、そうですか。 それ、ほんなら全部入るんですか。山城・加茂の給食センターの処分する生ごみは全部入るんですね、できるんですね。
事務局	全てではないです。
委員	一部分だけですか。
事務局	はい。
委員	半分とか4分の1とか、そういう具合でいくと何ぼ位に入るんですか。この全体の。
会長	その日によっても量が違いますので。
委員	ああ、そうやんね。種類によっても。
事務局	一概に言えないですが、半分あるかどうかかなという。まあ、これ憶測です。
委員	処理機で処理してくれたはる訳ですよね。 木津の給食センターの方は一応、消滅型で今年からやってくれはる訳ですよね。4月から一応、実証実験ということで、消滅型生ごみ処理機で木津の給食センターと清水保育園はしてくれはる訳ですよね。
事務局	4月と書いておりますけれども、準備でき次第、お願ひしたいと思ってますので、多分3月位からできるかなと思っております。
委員	分かりました。ありがとうございます。
会長	はい。まだまだ議論したいところですけども、大体時間が予定の時間が来たので。今日ですね、色んなアイディアを頂いて、益々ですね、基本的に燃えるごみの中に入ってるごみを減らそうと。主には、生ごみそれから紙それからプラスチック類ですけど、その中で基本的にリサイクルが可能な、今のルールの中で可能ですね、生ごみあるいは紙を中心とした形でのリサイクルの方向への話ですね。だから、浅利先生がおっしゃったようにそういう面から言うと、リサイクルという意味から言うとですね、リデュースの施策がちょっと足りな

		いなという気がしないでもないけども。あと、プラスチックですね、これも減らすに越したことはないんですけど、一方でですね、出来る焼却工場が熱利用するということになれば、カロリーがですね、なまじどうしても必要で、ましてやですね、先程の話じゃないんですけど、生ごみが入ってきた場合には水があると、カロリーが下がってしまうという訳で、熱利用しようとしても、冬になつても冷水しか出てこないんではちょっと困りますので、それはその形のサーマル・リサイクルの方かなというような気がします。いずれにしましても、そういう形の方向の中で色々な施策、これにはどうしてもお金が、予算の裏付けがないと、中々動いてくれないというところもあります。特にですね、色々な新しい事業をしていきますと、初期的な費用がかかりますので、それをどうするのかというような問題も出てきます。そういう面でですね、ちょっとまた日にちが空きますけど、次回以降ですね、そういう面から言うと、少しそういうリサイクルを進めていくための資金といいますか、キーと言うのですかね、そういうものをどういう形で考えていったらいいのか。場合によっては、有料化ということも含めた形の中でどういうふうにですね、それを進めていくかということについてのご議論を頂きたいと思いますのでよろしゅうござりますでしょうか。
委 員		追加意見。
会 長		追加意見、どうぞ。
委 員		追加意見です。先程、会長の方からね、ごみの分別ということ、新しい清掃工場ができるということでね、その辺のエネルギーが必要ということで、これにつきましては前回の34頁、最終でですね、言って。その辺の分かり易いごみの捨て方したらどうやということで、委員さんの方から提案があるんですけど、事務局の方から分別につきまして、まだ確固たるもののは決定いたしませんけどもということで、基本的には変わらずと思ってますということですね。最近プラスチックごみにつきましても、その辺燃やすやつとエネルギーですか再利用するやつということで、そういう今月1月からやっておられたみたいなので、この事案は事務局さんからね、いや今考えてませんと違ごて、ちょっとその辺の状況も踏まえてですね、この辺の稼働もありますし、ちょっと今勉強して、考えていただけたらと思います。
会 長		ちょっと今のところで話せる範囲内の中で、事務局の方から1つご説明いただけたらと思います。
事 務 局		すみません。○○でございます。 今、進めております新たなクリーンセンターの焼却施設の関係とごみの関係ですけど。先程から話ありましたようにサーマル・リサイクルを進めようということで、クリーンセンターの方は計画を持っております。従いまして、先程浅利先生の方から話ありましたように、リデュースでありますとかそうカリサイクル、そういうことした上で残ったものを燃やせるものについては燃やして、そのエネルギーを回収していくこうということで思っておりますので、発電施設を併設するということでございます。発電施設につきまして、今の計画におきましては、今までのクリーンセンターにつきましては発電施設の効率が10%足らずの所が多かった訳ですけど、12%以上の高効率発電を目指していこうということで今、進めています。その中で、クリーンセンターの燃やすごみの種別ですけども、当然今、集めさせてもらっています燃やすごみ、それに加えましてプラスチック類につきましても十分燃やせるだけの能力を備えたクリーンセンターを造っていこうということで進めておりますので、生ごみそ

	<p>れと廃プラスチック類、こういったものにつきましては新たなクリーンセンターで燃やしていきたいというふうに思っています。ただし、プラスチック類の中におきましても、良いプラスチック類ということで容器包装の関係につきましては、既にリサイクルというルートが確立されておりますので、容器包装類につきましては従来通りそういういたルートでのリサイクルを進めていきたいということで思っております。以上でございます。</p>
会 長	<p>はい。ありがとうございました。 そしたらですね、今日の議論はこれで終わりにしまして、事務局の方から今後のスケジュール等につきまして、お話を頂けたらと思います。</p>
事 務 局	<p>はい。すみません。 それでは、慎重なご議論頂きまして、ありがとうございました。それではですね、議事次第にもございますけど、その他ということで次回の審議会の日程について、お知らせをさせていただきたいという風に思います。次回はですね、2月を考えてございまして、5月の18日、月曜日。5月の18日、月曜日の午後1時からという事でお願いをしたいというふうに考えております。これまで2時ということでお願いをしておりましたが、今回午後1時ということで、場所についてはいつもの場所ということで、お願いをしたいというふうに考えております。以上でございます。</p>
会 長	<p>はい。ありがとうございます。 では沢山ですね、ご議論頂きまして、かなりですね、より具体的なイメージが事務局も含めて共有できたと思います。また、今後ともですね、活発なご議論を頂きたいと思います。どうも、ありがとうございました。どうも、ご苦労様でした。</p>
事 務 局	<p>ありがとうございました。それではですね。最後になりますが、生活環境部長の駒野から一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。</p>
事 務 局	<p>皆様、本日は慎重審議ありがとうございました。郡鳴会長におかれましては、議事進行をスムーズに進めていただきまして、ありがとうございました。皆様から本当に色々なご意見を頂き、行政側としましても耳の痛いお話を頂いたところでございます。組織づくりの方も大切であるというご意見を頂きました。今、本日提案させていただいた中でも城山台をエコ・スクールとして、それがモデル校となって、そこから他の学校にも広がっていけばいいなというふうに考えておりますので、中々パッといつぱッとできるというものではないと思っておりますので、ゆっくり皆さんのご意見頂きながら、着実に進めて参りたいと思っております。PRの方法も広報だけではなくて、音を利用したらどうかという何かすごく良いご意見を頂きました。実現できるかどうか別にいたしまして、京都市では既に実施されているということですので、私も検討していく必要があります。以前から浅利副会長の方からも言っていただいておりましたけども、リデュースの取組みについてですね、買い過ぎないとか食べたものを残さない、食べ物を残さない、作り過ぎない、ごみを出さないといったような取組みですね。そんなもったいないライフサイクルの方も進めていくことが大事ではないかなというふうに、私も思っております。今後におきましても、また皆様のご意見を色々と頂きながら。あつ、それと忘れてましたが、減量化推進委員の皆さんには日頃から大変お世話になっております。ぎゅっと一絞り運動も市役所の中で、実際にやっていただいて、PR活動していただいております。できるだけ多くの方にどうして伝えれば良いかということで、多くの人が集まるイベント、今年これやましろ祭りでぎゅっと一絞り運動を実</p>

	<p>際にやっていただきました。他にも木津川市の中で多く人が集まるところがありますので、そういったところでもまた連携を取りながらやっていければと思っております。郡鳴会長からも言っていただいていましたように、お役所仕事は市民の意見を反映すると、効率的にやっていけるというお話をしたので、ごみ減量化等推進委員さんは正にエコ・リーダーでいらっしゃりますので、市民とのパイプ役ということで、市と連携を深めて、共に頑張っていきたいと思いますので、今後におきましても、どうぞよろしくお願いします。本日はありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
その他の 特記事項	特になし
署名欄	<p style="text-align: center;"><u>木津川市廃棄物減量等推進審議会 議長</u> 印</p> <hr/> <p style="text-align: center;">_____ 印</p>